

商用車向けブレーキユニットなどを手がけてきたTBKが、電動化時代への備えを急いでいる。電気自動車（EV）向けバッテリーケースを初受注し、量産準備に入ったほか、ロボット向けなど非自動車事業も積極的に開拓する方針だ。尾方馨社長に今後の事業戦略を聞いた。

― 足元の受注状況はどうか
「2022年度の上期は半導体不足や中国でのロックダウン（都市封鎖）が影響し、売上高が減少した。日本では商用車向けが主力で、半導体不足の影響を大きく受けた。一方、建機向けは半導体不足の影響をあまり受けず、海外需要は回復している。国内で新規受注も獲得した」

― 今後の事業戦略は

インタビュー

TBK 尾方 馨社長



EV向け開発本格化 過給器部品の性能向上も

「中期経営計画にも盛り込んでいるが、EVに向けて本格的に動く。30年に向けたビジョンを策定し、EVの流れに対応していくために『当社も変わっていきこう』と呼びかけている。すでに、電動二輪車向けバッテリーケースの受注を獲得した。来

年にもタイの工場で量産に入り、燃費向上ニーズが高まっており、引き合いも増えている」

「EV化への過渡期として、自動運転に向けた製品開発

は、ブレーキユニットの異常検

知システムを開発中だ。自動運

転になると、ドライバーが異常

を見逃す可能性も出てくるだろ

う。ブレーキに振動センサーや

温度センサーを取り付け、車両

側に情報を集約できるような仕

組を考えている」

― 既存事業の効率化や強化も

「既存事業の効率化や強化も

考えている。温度センサーや

温度センサーを取り付け、車両

側に情報を集約できるような仕

組を考えている」

― 既存事業の効率化や強化も

「既存事業の効率化や強化も

考えている。温度センサーや

温度センサーを取り付け、車両

側に情報を集約できるような仕

組を考えている」

「プロフィール」おがた・かある 1986年東京都品川区（現TBK）入社。2007年経営企画部長、11年TBKアメリカ社長、17年TBKタイランド社長、18年TBK執行役員などを経て22年4月から現職。1962年12月20日生まれ、59歳。神奈川県出身。

欠かせないが

「内燃機関を持つ商用車の市

場は30年半ばまで高い水準を維

持すると見ている。このため、

ターボチャージャー（過給器）

向け部品を増やす計画だ。複雑

な形状に加工できる『アルミ重

力铸造GDC』に対応した生産

設備を導入した。この設備でタ

ーボチャージャーのコンプレッ

サーハウジングを生産する」

「ターボの主要部品はベアリ

ングハウジングとタービン、コ

ンプレッサーハウジングの3つ

だが、GDCを導入したこと

で、3部品すべてを当社で生産

できるようになった。今後は性

能の向上や生産合理化も進めて

いく」

― サプライヤー各社は非自動

車向け事業にも積極的だ

「自動車事業で培ったノウハウ

を生かし、製造工場を使う口

ポット向けの部品を提案してい

る。当社の鋳物やアルミの技術

は、ロボットのアーム部分や軸

の部分に活用できる。生産現場

では自動化ニーズが非常に高

く、当社が貢献できる領域が多

くあると思っている」

― カーボンニュートラル（温

室効果ガス実質排出ゼロ）に向

けた取り組みは

「二酸化炭素（CO₂）の直

接的な排出を減らすという点で

は、タイ工場に太陽光パネルを

導入している。また、本社（東

京都町田市）では、21年から再

生可能エネルギーを導入し始め

た。年間のCO₂削減量は11

8トになる見込みだ。また、全

社的な取り組みを進めたり、戦

略を練るために『サステナビリ

ティ推進室』を21年に新設し

た。30年度までに13年度比で46

%のCO₂削減を目指す」

（赤石 達真）